

2020 年度 若手・女性研究者奨励金 レポート

研究課題	1980 年代のファッション・メディアとしての歌謡番組 ーテレビ放送が若者の服飾文化を牽引した時代と その影響力ー
キーワード	①メディア文化、②服飾文化、③映像アーカイブス

研究者の所属・氏名等

フリガナ 氏名	エラ サトミ 江良 智美	所属等	東京家政学院大学 現代生活学部 生活デザイン学科 非常勤講師
プロフィール	服飾デザイン、繊維製品の知見を活かし、メディア文化と服飾文化の関係性について研究を進めております。特に 1980 年代のファッションとメディアとの関係性に興味関心があります。		

1. 研究の概要

インターネットやスマートフォンが普及する以前の若者にとって、テレビ番組は重要な情報源であった。現在でもテレビ番組は情報を伝播するだけでなく、コミュニケーション・ツールとしても機能しているが、映像による動的情報が少なかった 1980 年代、テレビ番組の存在は若者文化を研究する上でとても重要であると私は考える。

当時、歌謡番組は若者に絶大な人気を誇っていた。番組内で出演者が着用した服飾、ファッションスタイルは、その後の価値観を形成する重要な要素であったと考えられる。

本研究は 1980 年代、歌謡番組の出演者がどのような服飾に身を包んでいたかを分析することで、その後の流行現象やポピュラー文化への影響を考える新しい視点を生み出そうとするものである。

2. 研究の動機、目的

本研究に至った動機は二つある。

一つ目は、1980 年代の歌謡番組の服飾表現に着目することは、テレビによる情報伝播と服飾流行の関係性について新しい知見となるのでは、と考えたことである。当時、テレビ番組の演出効果として、ステージ衣装は様々な創意工夫がされていた。楽曲や歌詞のイメージを表現したもの、歌唱者の個性を引き立たせるもの、そして、視聴者が自身を投影し憧れを描く最先端のスタイルなどである。当時の雑誌メディアやファッション産業の動向と歌謡番組で表現される服飾表現を比較分析することで、1980 年代のテレビによるファッション情報の伝播について調査したいと考えた。

二つ目は、これまで服飾文化の主たる一次資料は雑誌メディア等が多く用いられているが、映像メディアの記録を精査することで、より当時の具体的な衣生活や着用に関する情報を得ることができるのではないかと、考えたことである。1980 年代は若者の衣生活はカジュアル・ウェアが中心となり、それに伴い、「着こなし」が重要となった時代である。「着こなし」を理解するための動的な「しぐさ」を記録した映像資料は、20 世紀の服飾文化を知る上でとても重要である。当時若者に絶大な人気のあった歌謡番組では、出演者の表現などからこれらの分析ができるのではないかと考えた。

3. 研究の結果

本研究にとってコロナ禍の影響は非常に大きく、第一回目の緊急事態宣言下では調査を予定していた図書館、博物館、アーカイブス等が閉館となってしまった。また、外出制限のため、質的調査に関しても困難が生じた。そこで、当初予定していた計画から、基礎研究となる資料の調査分析を重点的に行うこととした。昨夏以降、一部開館となった施設で資料調査を行ったが、施設の利用は抽選形式や時間制限など、困難な状況が続いた。

確認できた資料群から服飾情報の記録を行い、同時期の雑誌メディア、新聞の特集記事、繊維産業の動向などとの関連性について調査した。結果、歌謡番組からファッション情報受容の様子について、雑誌メディアの読者欄等に表出されていたことを確認できた。また、1970年代の歌謡番組の映像資料を同時に分析し、1980年代との比較を行うことにした。

タブレット端末で速記記録した服飾デッサンを資料化することは、映像資料から服飾情報を抽出するためには非常に有効であった。しかし、瞬時に情報を把握するためには服飾造形の基礎的な知識量が必要で、一度に抽出できる情報量が限られると感じ、データ化に関しては研究計画からより利便性の高い構造を再考する必要がある。

現在、結果について論文発表の準備をしているが、1980年代の歌謡番組には楽曲だけでなく、若者が関心を寄せる様々な情報が含まれていたと考察している。バリエーションが増加しつつあった繊維製品、多様化しつつあった余暇・リクリエーション、学園生活、海外文化への興味関心などである。1970年代と比較し、それらの情報がより豊かになっていたのが1980年代と考えられる。1980年代の歌謡番組に映し出されたファッションは、楽曲をイメージする最先端の流行スタイルということだけではなく、視聴者のライフキャリア、生き方の価値観を左右する大きな存在になったと考えられる。

4. 研究者としてのこれからの展望

服飾文化を映像資料から分析することは、特定の時代をどのように人々が感じ、捉え、過ごしていたかを立体的に知ることのできる有効な手法です。特に1980年代の服飾表現に関する研究は、今後他のメディア文化研究に影響を与えると私は考えております。

一方で、服飾資料の調査分析にはデザイン、造形に関する技術、繊維素材などの十分な知識を要し、データ化などには一定の時間を要すると考えられます。しかし、細微な変化から生まれる表現の違いこそが20世紀以降の服飾文化の特徴であり、それらの情報を整理することは非常に重要です。将来的には1980年代の服飾文化に継続的に着目し、社会との関係性、服飾が作り出すイメージが、映像作品やマンガ作品にどう描かれ、どのような影響を当時の若者に与えていたかを調査したいと考えています。

5. 社会（寄付者）に対するメッセージ

この度は本研究に対するご支援をいただき、誠にありがとうございました。

感染症予防のために自宅で過ごすことが多かった2020年度、私たちは映像作品によってリフレッシュした時間も多かったと考えます。同時に外出することが減り、着ることの本質的な意味が問われた時間でもありました。映像作品や服飾を改めて私たちが創り出した文化として再認識することは、それらに携わる方々の情熱を知り、敬意を持って受け取るきっかけになると考えます。こうした文化的な活動は生きる楽しみを創出する存在であると私は考え、長い道程ではありますが研究活動を続けていきたいと考えております。